Wagnerfestspiele "Arakawa-Bayreuth"

☆=田辺とおる

外国人の主役歌手による公演の他、極 劇場と外来オペラの来日公演、つまり 並んで欧米オペラハウスの演目三本柱 は皆無に近いのが現状だ。 外の、いわゆる「民間オペラ公演」で 会形式公演だが、こういう「大手」以 先生によるオーケストラ主催の半演奏 グナー指揮者として高名な飯守泰次郎 のは、僕の所属する東京二期会や、ワー よるワーグナー」の実績を重ねている めて少ない。不定期ながら「日本人に を形成しているワーグナーは、新国立 かとはいえない。なかでも、これらと オペラの有名どころに偏っていて、豊 いう点では、モーツァルトとイタリア もに随分充実してきたが、作品の幅と 最近の東京は、オペラ公演が質量と

を区別するのは、要するに興行規模だ。は違いないのだが、「大手」と通称「民間」オペラも東京二期会公演も皆、民間にするうも東京二期会公演も皆、民間に運営している新国立劇場以外は、外来運営している新国立劇場以外は、外来

かない限り、幕は上がらない。
大ケットも高いが、さらに文化庁や芸術チケットも高いが、さらに文化庁や芸術がラの制作は高くつく。大手の公演はオペラの制作は高くつく。大手の公演はオペラの制作は高くつく。大手の公演は

(本) に対しているのだ。なぜなら大手公演よりゼロが二つ位少なく、売り上げが高いの大学が、聴衆の裾野を広げる旗振りではなりが、聴衆の裾野を広げる旗振りではなっているのだ。なぜなら大手とり役になっているのだ。なぜなら大手とりではなっているのだ。なぜなら大手という支援がないか、あっても大手をできません。

大しないのだ。
まり大手公演では、オペラ聴衆層は拡まり大手公演では、オペラ聴衆層は拡安価な券も設定されているが枚数が少

一方、民間オペラはS席一万円台前半が限度だ。ようやく一般の商業公演半が限度だ。ようやく一般の商業公演半が限度だ。ようやく一般の商業公演半が限度だ。ようやく一般の商業公演

ここに、裾野の広がる可能性がある。 高工価格の枠内ならば、知人が知人を らず、日本の興行界に馴染んだ方法だ。 らず、日本の興行界に馴染んだ方法だ。 話ううちに広がる。商業演劇と異なる が稼げないこと、そのため人件費・出 が稼げないこと、そのため人件費・出 が稼げないこと、そのため人件費・出 が稼げないこと、そのため人件費・出

しかし日本の音楽専門教育は大きくして欠かせない存在に成長している。として欠かせない存在に成長している。として欠かせない存在に成長している。して欠かせない存在に成長している。という事情から、ではとても賄えないという事情から、おいるの音楽専門教育は大きくしかし日本の音楽専門教育は大きくしかし日本の音楽専門教育は大きく

リアンと称されるファンだけではなく、リアンと称されるファンだけではなく、日本の介ラシック愛好家にドイツ贔屓は多の前奏曲はプロ・アマ問わずオケ演奏の前奏曲はプロ・アマ問わずオケ演奏の花形で、演者と聴衆の両者から心底愛されている名曲ではないか!そんに愛されている名曲ではないか!そんなワーグナーのオペラ上演は、ワグネなワーグナーのオペラ上演は、ワグネ

その音楽は「麻薬」なのだから。ていてほしい。前々号に書いた通り、誘われたという人にも、門戸が開かれにも、あるいは、たまたま知り合いに散歩がてらフラリと立ち寄る地元の人

マーグナー音楽祭「あらかわバイロワーグナー音楽祭「あらかわバイロスト」は、この悲願が集結して発足した。 演出家が揃った。オーケストラは本公演出家が揃った。オーケストラは本公演出家が揃った。オーケストラは本公演出家が揃った。オーケストラは本公方のために集まった祝祭管弦楽団だが、 英揃い。なによりも「パルシファルなら是非弾きたい!」という情熱の塊だ。ら是非弾きたい!」という情熱の塊だ。ら是非弾きたい!」という情熱の塊だ。らと非弾きたい!」という情熱の地だ。

あなたも是非、立ち会って下さい!センセーションが、胎動している。ニューウェーブが、ここに生まれる。



ドイツ・バイロイト祝祭劇場

雑誌連載や楽譜編集

玉

レビ出演も多い他、

www.tanabe.de

京二期会会員。立音楽大学講師。でも健筆を揮う。

■たなべ・とおる

ヴェルディ・プッ パニー「十二夜」な シェークスピアカン CM・ベルリン・ ジカルまで出演した バラエティーまでテ ティ・ロッシーニ・ ペラにも多く出演 をはじめ、日本のオ 年以降は新国立劇場 どに出演。二〇〇〇 仏・西語)・ドラマ・ の声を吹き替え(独 業にも活動を広げ 後、ベルリンで俳優 てオペラからミュー 劇場」専属歌手とし ドイツの「北ハルツ NHK音楽番組から で好評を博した。 チーニなどの諸作品 ワーグナー・Rシュ ムライ」では渡辺謙 る。映画「ラストサ トラウス・ドニゼッ し、モーツァルト・